2024 年 3 月 1 日

関係各位

第 10 回全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会開催における

大会運営と予選方法について

平素より公益財団法人日本体操協会 大会プロモーション委員会の大会運営にご協力をいただき、また、本会の趣旨にご賛同いただきありがとうございます。

さて、昨年本会において組織編成が行われ、トランポリン委員会の「ジュニア競技部」が廃止されることとなりました。ジュニア競技部廃止に伴い「全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会（以下、全日本ジュニア)」が大会プロモーション委員会に移管されることとなり、予選方法を含め大会運営方法、問題点について再検討することとなりました。この案件については、トランポリン強化本部、審判本部とも情報を共有し、かつ検討を重ねた上でいくつかの改正を行い、2024 年度の第 10 回より施行することといたします。

今年度 7 月末に開催されました第 9 回大会から予選がスタートしたものの、依然参加選手の増加により、大会運営も然る事ながら、参加する選手や監督・コーチ、地元協会の皆様にとって大きな負担となっていることは周知の事実でございます。

また、大会運営に伴う問題点として**経費削減**、さらに運営にご協力いただける人材の確保なども重要な検討課題となっておりますことをご理解いただきたく存じます。将来に渡り継続的で健全な運営を行うためには、目先のことや個別の案件に対処するだけではなく、全体や将来に目を向けてメリットを選択していく必要がございます。

ご承知の通り、本大会は**「全国大会」**であるということを再度思い返しながら、本大会に関わるすべての皆様にとって**「価値のある大会」**に育てて行く所存でございます。

最後に、今回の変更点については、前述の状況を踏まえた上での変更となっておりますが、これまで通り**「全国からジュニアチャンピオンを決定する大会」**という位置づけで大会運営を行って参りますので、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人日本体操協会
大会プロモーション委員会
委員長 後藤洋一
トランポリン委員長 石田正人

1. 本大会のこれまでの問題点

- 全国大会であり、チャンピオンを決定する大会であるにもかかわらず、100 名前後の選手が参加するカテゴリーが存在する
- 参加人数が多いことによる弊害
  - 現予選の実施方法により、参加人数の予想が立たないこともあり、競技日程、競技進行が参加人数次第となっている
  - 十分なウォームアップ時間が確保できていない (怪我・障害のリスクが上がる)
  - ほとんどの場合、通常の 2 パネルで運営が実施されていない
  - 設置されるトランポリンの台数が増えることで (3 パネルなど)、レンタル代・輸送費・役員費用などの経費がかさむ (物価の高騰も影響)
  - 1 日の競技時間が長時間に渡るため、選手はもとより、監督・コーチ、その他すべての関係者に大きな負担となっている
  - 審判の疲労により、正確で公平な審査に影響する可能性がある
- 開催県、開催場所によっては、用意するトランポリン台の性能が明らかに違う場合がある
  - C/H* と W/H* のトランポリンの性能が根本的に違う (本番での演技時に怪我につながる)
  - C/H と W/H でトランポリンの台数が違う (選手ごとに練習時間の差異や制限が生まれる)
  - 必要台数を揃えることが出来ない都道府県もあり、レンタルなどに費用が掛かる
- 多数の参加選手、またはスターティングオーダーの状況により、C/H と W/H で同じ所属の選手が同時に競技・練習を行う場合があるため、コーチが両方に対応できない場合がある

*C/H: Competition Hall (メイン会場)

*W/H: Warm-up Hall (ウォームアップ会場)

2. 全日本ジュニアの目標について

様々な問題点を極力解決し、今後のジュニア層の強化・育成を念頭に、以下の内容を今後の目標とします。

- ✓ ジュニア層（小学生・中学生）において、各カテゴリーから全日本チャンピオンを決定する
- ✓ ジュニア層のレベルアップ（底上げ）を促す
- ✓ 国際大会において、将来に渡ってメダル獲得が出来る選手を多く輩出する
- ✓ 大会運営に係る経費を削減しながら、より良い大会運営を実施し、選手がより高いパフォーマンスを発揮出来る環境を提供する
- ✓ どのような会場でも同じ日程での開催が可能で、選手やその他関係者に対して極力負担の少ない「コンパクト大会」を目指す

3. 2024 年度「第 10 回全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会」開催内容

- 現在のカテゴリー分け、10 才以下、11-12 才、13–15 才という学年数による人数の偏りを無くすため、以前採用されていた**「小学生低学年 (小 1～3 年)」「小学生高学年 (小 4～6 年)」「中学生」**に戻し、それぞれのカテゴリーが 3 学年となるよう変更する
- 第 10 回大会の「第 1 演技」は現状通りとし、カテゴリー変更のため小学 4 年生は前 11-12 才の第 1 演技を行う

対応表	旧	新
第 1 演技	10 才以下	小学生低学年
	11-12 才	小学生高学年
	13-15 才	中学生

- 出場人数については、上記変更後の各カテゴリー男女それぞれ最高 50 名、計 300 名とする
  - ➢ 個人競技: 10 名 5 グループ
  - ➢ シンクロ: 最高 25 ペア 2 グループ
- 競技内容
  - ➢ 個人競技: 予選 第 1 演技+自由演技 計 2 本　決勝 自由演技 1 本
  - ➢ シンクロ: 予選 自由演技 1 本　決勝 自由演技 1 本
- コンパクト化を実現するため C/H は 2 パネルで実施し、W/H はトランポリンの設置はしない
- 大会スケジュールは世界年齢別運営方式で行う (図 1 参照)
- FIG の難度制限、禁止技に従って制限を加える (将来的に適宜変更を検討する)
- 公式練習枠とは別にフリー練習枠を導入する。所属の違う選手、および他のカテゴリーに出場する選手間でのシンクロの練習などに対応する (現在調整中。変更の可能性あり)

※その他、詳細については大会要項にて告知いたします

4. 競技日程 (案)

- 各カテゴリー男女それぞれ、前日に公式練習としてグループ毎に 30 分の練習を確保
- シンクロナイズド競技に出場していれば、競技終了まで毎日トランポリンを跳ぶことが可能
- 小学生低学年については大会 2 日目で競技終了
- 競技日は毎日カテゴリーの違う組合せで、個人・シンクロの決勝、メダルセレモニー (団体含)を実施

	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
8:30		小学生低学年 G1	小学生高学年 G1	中学生 G1
9:30		小学生低学年 G2	小学生高学年 G2	中学生 G2
10:30		小学生低学年 G3	小学生高学年 G3	中学生 G3
		小学生低学年 G4	小学生高学年 G4	中学生 G4
11:30	小学生低学年 5グループ 30分/グループ	昼休憩	昼休憩	昼休憩
12:30		小学生低学年 G5	小学生高学年 G4	中学生 G4
13:30		中学生 シンクロ G1	小学生低学年 シンクロ G1	小学生高学年 シンクロ G1
14:30	フリー練習	中学生 シンクロ G2	小学生低学年 シンクロ G2	小学生高学年 シンクロ G2
15:30		小学生低学年 決勝	小学生高学年 決勝	中学生 決勝
		メダルセレモニー	メダルセレモニー	メダルセレモニー
16:30		中学生 シンクロ 決勝	小学生低学年 シンクロ 決勝	小学生高学年 シンクロ 決勝
		メダルセレモニー	メダルセレモニー	メダルセレモニー
17:30				閉会式
18:30		小学生高学年 5グループ 30分/グループ	中学生 5グループ 30分/グループ	
19:30				
20:30				

図 1: スケジュール案

5. 現在の予選方法の廃止について

第 9 回大会で実施しました各都道府県による「予選」については、現状を鑑み全国で予選を行うには準備が整っていないと判断し、以下の理由により一旦廃止といたします。

- 各都道府県協会によっては予選会実施に負担がかかる場合も多く (運営に対する余力のある都道府県協会だけではないため)、また、同時期に予選を行うことで審判の確保が難しい
- 都道府県ごとに採用する審判の点数の出方に差異が生まれる可能性が高く、予選を実施するには時期尚早であると判断
- 現状、適切な予選通過得点を決定することが困難 (選手数の増加に繋がる)
- 参加者数の予想が立てられない
- 予選方法の記述に対する解釈の違いによる混乱

6. 第 10 回大会の「予選」について

第 10 回大会は、上記「5.現在の予選方法の廃止について」の問題点を極力取り除き、公平な審査によって予選通過者を選定します。

- ビデオ審査とする (所属団体ごとで撮影)
  - ビデオ撮影方法は別途提示
- 審判本部による審査とする (ビデオを見て同時に審査)
  - 主審: 1 名　E 審判: 4 名　H 審判: 2 名　D 審判: 1 名　T 審判: vTimer を使用
- 要項に記載する期間内に各選手 1 本ずつの動画を規定に従って投稿する
  - 当該年 5 月頃掲載予定
- 各カテゴリー男女それぞれの申請数が 50 名を下回った場合は、得点の下から 10%をカットし、小数点はすべて切り上げする

  例) 49 名 * 0.1 = 4.9 → 5 名が予選落ち
- 以下、各カテゴリーの基準点に従い、極力点数を上回る選手の申請を行うこと

カテゴリー	基準点
小学生低学年 男女	38.0 点
小学生高学年 男女	40.0 点
中学生 男女	42.0 点

- 難度制限 (1 種目につき、以下の難度以上の技を実施した場合は失格とする)

カテゴリー	難度制限
小学生低学年	1.4
小学生高学年	1.6
中学生	1.8

※小学生高学年は、難度制限上 3 回宙返りが可能となるが禁止とする

- **予選免除はなし**とする

7. 検討事項

大会プロモーション委員会としては、今後永続的にビデオ審査を採用していくつもりはなく、準備が整えば、地域からジュニア選手を選出する方法を、審判本部、および各都道府県協会の状況を見ながら進めていきたいと考えております。以下、今後の検討事項をまとめます。

- ジュニア層のレベルアップを目指し、各カテゴリーとも現在の第 1 演技の変更を検討する
- ビデオ審査での予選から、各都道府県での予選に切り替える方向性を見いだす (数年が必要)
  - 都道府県単体、ブロック、複数の都道府県による予選方法の検討
  - 予選開始時期の検討
  - 審判の採点に大きな差異が出ないよう、審判の育成・派遣の検討 (審判本部)
  - 審判業務に従事出来る審判数の増加を目指す (審判本部)

8. Q & A

Q **予選通過者が各カテゴリー50 名になることで、選手によっては出場出来る大会が 1 つ減ることになります。また、中学 3 年生はこれで最後になり出場が叶わない場合がありますが、その点どのように考えていますか?**

A 全日本ジュニアは「**全国大会**」であり、各カテゴリーのチャンピオンを決める大会という位置づけであるため、予選を勝ち抜いた選手で競うが理想であると考えます。ぜひ出場出来るよう練習に励んでいただきたいと思います

Q **カテゴリーが変更されるため、例えば 10 才以下の最年長の選手は小学生高学年の最年少になってしまいます。もう少し時間を置いて変更できないでしょうか?**

A カテゴリー変更については、どの時点で変更したとしても影響がある選手がいるため、変更するとすれば出来る限り早い段階が最適であると判断しています

Q **各カテゴリーで定員が割れた場合、10%の選手が予選落ちすることになりますが、全員出場しても良いのではないでしょうか?**

A 全員出場出来ると予選を行う意味がないため、現状はこのままのルールで進めます

Q **国際大会で活躍する選手を育成したいのであれば、FIG の年齢区分を採用する方が良いのではないでしょうか?**

A まず、FIG が定めている年齢区分には 10 才以下が存在していないため、小学生・中学生の区分には適合しません。現状のままだと、特に 10 才以下は「小学 1 年生と小学 5 年生の早生まれの選手」が含まれ、体格差がより顕著に出てしまい低学年の選手は不利になります (特にフライト)。また、各カテゴリー男女それぞれ上位 50 名とするため、学年数を公平にすることが望ましい判断しました。

Q　**ウォームアップホールにトランポリン台を置けば、もっと練習が出来るのではないでしょうか?**

A　全日本ジュニアは、これまで参加人数の増加による問題点が多くありました。それによって、ご協力いただける地元協会のみなさんも大変なご苦労を強いられております。特に、性能の等しいトランポリン台を 8 台以上揃えるためには、経費の問題、会場セッティングの負担もありますので、どの会場でも最低限の設定で大会が運営出来るシステムにしておくことが最適だと判断しました。よって、現状はトランポリンの台数に余裕があっても設置しないこととしました。

Q　**フリー練習は、他所属とのシンクロナイズドには有効だと思いますが、150 名が一斉に練習した場合待ち時間が増えると思いますが、所属ごとに練習は出来ないでしょうか?**

A　本大会は様々な検討を行い「コンパクト化」を目指しております。コンパクト化により、各カテゴリーのグループごとに前日練習が設定できますので、フリー練習はあくまでも自由に練習が出来る時間とお考えください。また、演技直前の練習時間も、グループ人数比率的に考えても十分取れると考えております。フリーにしている他の理由としては、所属単位だけでなく、選手単位での練習も可能となり、かつ会場到着時間が遅れるなどにも対応できますので、所属ごとで有効に利用していただけると思います。日本の大会では初めての試みであるため、問題があれば常に検討・修正をして参ります